

IMF東・東南アジア太平洋地域サブリージョナル委員会報告

■開催月日： 2010年4月16日（金）09:00-17:00 - 17日（土）09:00-17:00

■開催場所： シンガポール・オーキッドカントリークラブ

■参加者： 10ヶ国・地域12組織55名、IMF本部・地域事務所6名、合計61名
*日本からは西原JC議長他13名参加

■会議概要：

今回の会議は東アジア地域と東南アジア太平洋地域のサブリージョンが合併して初の会議であった。また2009年の第32回IMF世界大会で採択されたIMFアクションプログラムの当地域での実施を議論する最初の会議となった。

会議では2010年のIMF優先活動課題である、多国籍企業ネットワーク、組合構築、持続可能な開発、地域活動について議論を行った。GUF統合問題については、アジア地域で初めてIMF本部から問題提起があり、意見交換を行った。ジェンダー問題はIMFの優先課題として、今後も引き続き毎回議題に取り上げ議論していく事も確認された。

アジア地域を代表する執行委員2名の交代についても確認された。また、IMF本部からサブリージョンの今後のあり方として、現在南アジアと2つに分かれているアジア地域を1つにする提案があり意見交換を行ったが、急がずに議論していく事となった。

■各議題概要：

議題1. 歓迎・開会

会議ホスト組織のシ ril・タンSC議長からシンガポールの経済危機からの回復に向けた三者構成の取り組み紹介が紹介された。ユルキ・ライナIMF書記長は、経済危機からの回復状況は各国異なりボーダレス化が進んでいることから、国レベルでは無く世界レベルでの取り組みが必要な事、GUFもG20等に協力して対応している事が紹介された。

議題2. 世界・地域・各国でのIMFアクションプログラム実施について

冒頭ライナ書記長が2010年活動の4つの優先事項について説明し、(①多国籍企業ネットワーク構築、②組合構築・組織化・キャンペーン、③持続可能な開発、④地域活動の優先課題)パネリストとして執行委員がコメントした。西原JC議長は主にアクションプログラムを自分達の活動に取り込むことの重要性について、女性執行委員代理のワティFS PMI書記次長からはアグニ女性執行委員退職の経過、ジェンダー問題の重要性、執行委員代理のバスチャンAMWU委員長は主要な取り組みとして労働組合権、アスベスト、公平な貿易等について言及した。引き続き参加組織との意見交換が行われた。

議題3. 多国籍企業における労働組合ネットワークについて

ライナ書記長が過去の世界企業別協議会等の経過説明と評価を行い、今後作業部会を設置して多国籍企業ガイドラインを作成し対象となる企業についても議論していく事が説明された。意見交換では日本から既にEWCがある欧州とアジアでは文化も違い、親会社の本国が何処かによってアプローチも違う事等について発言した。参加各各組織からもネットワーク構築への期待、ネットワークの独立性を確保すべきなど活発な議論が行われた。

議題4. 持続可能な開発と経済危機が雇用に及ぼす影響について

冒頭、シンガポールの経済危機への取り組みについて報告が行われた。解雇は最後の手段とし、教育訓練を重視して、賃金引き下げにも応じて取り組んできた経過が説明された。更に投資を呼び込み経済発展を目指す「チープ・ベター・ファースター」の取り組みも紹介された。引き続きインドネシア・日本・タイ・マレーシアの組合対応策が報告された。IMF本部は、経済危機が不安定労働に及ぼす影響の大きさを指摘し、今後の不安定労働キャンペーンの活動目標について説明した。西原議長は、このテーマについて引き続き次回のアジア金属労組連絡会議でも取り上げると発言した。

議題5. アスベストの禁止について

オーストラリア代表がアスベスト使用の現状、代替製品が無く、危険の認識度も低く、教育も十分行われていない事等を報告し、今後どうやって我々の行動計画に取り入れていくかについて議論した。

議題6. 気候変動とグリーン・ジョブ

IMF本部の取り組み、今後の活動計画について説明が行われ、オーストラリア・日本の代表が自国の取り組みについて報告した。参加者からは熱帯雨林の保護のためIMFがガイドラインを作って欲しい、インドの低価格自動車の環境に与える悪影響への問題意識、中国へアプローチすべきなどの意見が出された。

議題7. 組織化と強力な組合構築

IMF本部のベトナム、フィリピンでの支援活動、インドネシア、タイでの活動実績が説明された。不安定労働が増大し組織人員が減っているため、各国各組織での組織化への努力が要請された。引き続き、インドネシア・タイ・ベトナムが各組織の取り組みを報告した。

議題8. IMF-ICEM-ITGLWF意思表明のフォローアップ

ライナ書記長から今までの経過、事前配布された資料にそって組織統合のメリットを中心に説明が行われた。グローバルレベルでの組織統合であり、国レベルで統合しなければならないと言うことでは無い、地域での課題、部門の課題、財政面の問題について地域の意見を聞き、6月開催の執行委員会に報告するとの説明があった。参加組織からは財政問題への指摘、規約改正の問題、もっと慎重に分析すべき、統合した際のメリットをもっと詳細に知りたい、既に複数のGUFに加盟しているが統合したら加盟費はどうなるのか等の質問が出された。

議題9. 労働者・労働組合権侵害と国際連帯

ライナ書記長から2月に行われたフィリピンミッションの報告が行われた。後日正式なミッション報告が執行委員に送付される。

議題10. 各国・地域レベルでのジェンダー問題の主流化について

IMF本部から2001年のシドニー開催世界大会以降、IMF内部で規約改正を行い女性参画が進んできた事、今後更に女性の役員登用に向け長期的な努力が必要な事、アジア地域での女性育成の重要性が報告された。引き続き、シンガポール・日本・インドネシアの現状・取り組みについて報告が行われた。IMF本部からは今後もジェンダー問題を会議の議題に取り上げていくことが確認された。

議題 11. 労働組合活動における事務・技術職労働者の主流化について

IMF本部から昨秋行われた事務技術職労働者作業部会、IMFホームページでの情報提供、今後の全ての会議でこの問題を取り上げていくことが報告された。

議題 12. IMFコミュニケーション政策とメタルワールドの今後について

年4回発行されていたメタルワールドが、今年から年2回発行となる事に伴い、IMF加盟組織へのアンケートが行われた。今後印刷版を発行するか、電子媒体とするか、内容をどうするか等について意見交換が行われた。また、IMF本部からはアジア向けのウェブサイトをつくる予定との報告もあった。

議題 13. 運営上の問題

退任・退職した地域選出の執行委員（ジュリアス・ローAMWU委員長、アグニ・ダヤマンティFSPMI副会長）の後任を確認した。（ポール・ハウズAWU書記長、アンワル・ワティFSPMI書記次長）

サブリージョナルの今後については、IMF本部から現在2地域に分かれているアジアを一つとする提案が出され、意見交換が行われた。IMF本部はGUF統合の問題もあるので、今後急がず議論していきたいとコメントした。

議題 14. その他

タイの参加者からアジア金属労組連絡会議へのIMF未加盟組織の参加について問題提起があり議論が行われた。JC・関係組織・IMF本部と引き続き調整することとした。

以上